

農業農村整備事業等事後評価地区別結果書

局 名	九州農政局
-----	-------

都道府県名	福岡県	関係市町村名	く る め し みづまぐん みづままち 久留米市（旧三潴郡三潴町）
事業名	農村振興総合整備事業	地区名	みぬまのさと 水沼の里
事業主体名	福岡県	事業完了年度	平成21年度

〔事業内容〕

事業目的： 本地区は、福岡県の南西部、筑後平野のほぼ中央部に位置し、水稻を中心に環境保全型農業による野菜や施設園芸・花木などの営農が展開されている。

しかしながら、本地区内の農業用排水路の未整備区間等は土水路であり、波浪等による法面崩壊や土砂堆積が発生し、通水能力及び貯水能力が低下するなど水路機能の低下が顕著になっていた。

また、農道は幅員が狭く、路面に凸凹も多いことから、農業機械の通行や農作物の運搬において荷痛みによる品質低下が懸念されるとともに、歩行者等の地域住民の安全性も危惧されていた。

このため、本事業により農業生産基盤の整備を行い農作物の品質向上と農作業の省力化を図るとともに、併せて農村生活環境整備等による集落環境の改善と地域住民の交流の場等の確保を通じ、地域の活性化に資する。

受益面積：131ha

受益者数：352人

主要工事：用排水施設2.3km、農道5.3km、農業集落道11.1km、農業集落排水施設0.1km、農村公園1箇所、集落防災安全施設（防火水槽）22箇所、コミュニティ施設1箇所

総事業費：1,826百万円

工 期：平成15年度～平成21年度（計画変更：平成21年度）

関連事業：なし

〔項 目〕

1 社会経済情勢の変化

（1）社会情勢の変化

旧三潴町の総人口について、平成12年と平成22年を比較すると2%増加しており、福岡県全体の増加率1%を上回っている。

【人口、世帯数】

区分	平成12年	平成22年	増減率
総人口	15,459人	15,760人	2%
総世帯数	4,390戸	5,004戸	14%

（出典：国勢調査）

産業別就業人口については、第1次産業の割合が平成12年の11%から平成22年の8%に減少しているものの、平成22年の第1次産業の割合は福岡県全体の割合3%に比べて高い状況となっている。

【産業別就業人口】

区分	平成12年		平成22年	
	人数	割合	人数	割合
第1次産業	806人	11%	570人	8%
第2次産業	2,324人	30%	1,825人	26%
第3次産業	4,506人	59%	4,643人	66%

（出典：国勢調査）

(2) 地域農業の動向

平成12年と平成22年を比較すると、耕地面積については7%、農家戸数は31%、農業就業人口は53%減少しており、65歳以上の農業就業人口も45%減少している。

一方、農家1戸当たりの経営面積は36%及び認定農業者数は約2倍に増加している。

区分	平成12年	平成22年	増減率
耕地面積	9,516ha	8,820ha	△7%
農家戸数	8,299戸	5,701戸	△31%
農業就業人口	23,535人	10,963人	△53%
うち65歳以上	7,259人	4,003人	△45%
戸当たり経営面積	1.1ha/戸	1.5ha/戸	36%
認定農業者数	436人	841人	93%

注) 上表は久留米市の数値

(出典：農林水産統計年報、農林業センサス、認定農業者数は福岡県調べ)

2 事業により整備された施設の管理状況

用排水施設及び農道は、多面的機能支払交付金を活用し、耕作者及び地域住民が一体となった活動組織が適切に管理されている。

その他の施設は、久留米市や地域住民によって適切に維持管理されている。

3 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

(1) 農作物の生産量の変化

水稻、麦、大豆は、農業生産法人等への営農形態の移行に伴う作付拡大により計画を上回る作付けとなっているが、たまねぎ、いちごについては、高齢化や後継者不足に伴い、計画を下回っている。

【作付面積】

(単位：ha)

区分	事業計画（平成21年）		評価時点 (平成26年)
	現況 (平成18年)	計画	
水稻	45.0	45.0	53.6
麦	61.9	61.9	68.7
大豆	20.2	20.2	21.7
たまねぎ	3.4	3.4	—
いちご	3.5	3.5	0.6

(出典：事業計画書（最終計画）、久留米市聞き取り)

【生産量】

(単位：t)

区分	事業計画（平成21年）		評価時点 (平成26年)
	現況 (平成18年)	計画	
水稻	227	227	251
麦	236	236	245
大豆	38	38	45
たまねぎ	133	133	—
いちご	146	146	22

(出典：事業計画書（最終計画）、久留米市聞き取り)

【生産額】

(単位：百万円)

区分	事業計画（平成21年）		評価時点 (平成26年)
	現況 (平成18年)	計画	
水稻	51	51	56
麦	35	35	12
大豆	9	9	7
たまねぎ	9	10	—
いちご	142	156	31

(出典：事業計画書（最終計画）、久留米市聞き取り)

4 事業効果の発現状況

(1) 事業の目的に関する事項

① 農業生産性の向上

大豆については、排水路の整備による排水条件の改善によって単収が増加し、生産性の向上が図られている。

なお、いちごについては、単収は低いですが市場のニーズに沿った単価の高い品種への変更、水稻、麦は気象条件等により計画単収を下回っている。

【単収】

(単位：kg/10a)

区分	事業計画（平成21年）		評価時点 (平成26年)
	現況 (平成18年)	計画	
水稻	505	505	468
麦	381	381	357
大豆	190	190	206
たまねぎ	3,909	3,909	—
いちご	4,174	4,174	3,719

(出典：事業計画書（最終計画）、久留米市聞き取り)

② 農業生産活動条件の改善

農道や農業集落道の整備に伴い、農作業の時間短縮や、地域住民の利便性や安全性の確保が図られている。

(出典：久留米市聞き取り)

③ 地域の生活環境の向上

整備された農村公園やコミュニティ施設は、地域住民の交流の場として利用され、地域コミュニティの形成に寄与している。

(出典：久留米市聞き取り)

(2) 土地改良長期計画における施策と目指す成果の確認

① 美しい農村環境の再生・創造

農業集落道の拡幅により地域住民が路肩に花壇を整備し景観形成に寄与している。

また、防火水槽を道路下に設置することで、危険箇所の回避による安全性に寄与している。

(出典：久留米市聞き取り)

(3) 事業による波及効果等

コミュニティ施設、農村公園の整備により、これらの施設を核として、地域住民の学習、健康増進や憩いの場として、また夏祭りや地域の運動会などのイベントの開催を通じ、地域住民の交流の場として利用されるなど、地域の活性化に寄与している。

(出典：久留米市聞き取り)

(4) 事後評価時点における費用対効果分析の結果

総便益 1,430百万円

総費用 1,072百万円

総費用総便益比 1.33

(注) 総費用総便益比方式により算定。

5 事業実施による環境の変化

(1) 生活環境

農業集落道や農業集落排水施設の整備により、営農や日常生活の利便性、安全性が向上し、集落環境が改善している。

(2) 自然環境

農業集落道の整備で幅員が確保されたことに伴い、多面的機能支払交付金を活用した花壇（プランター）が整備され、集落内の景観形成に寄与している。

6 今後の課題等

本事業の実施により、維持管理労力の軽減や地域の安全性の向上・活性化の推進等の効果が発現していることから、今後も施設の機能維持を図るため、適正な維持管理を行っていく必要がある。

事後評価結果	本事業の実施による農業用排水路及び農道の整備により、農作業の省力化が図られている。 また、農村生活環境整備等による集落環境の改善と地域住民の交流活動が行われるなど、地域の活性化が図られている。
第三者の意見	事業の実施により、用排水施設が整備され、水稻、麦、大豆の生産量が増加したこと、農道の整備に伴い農作業の時間短縮が図られたことなど、効果の発現がみられる。 また、農業集落道や集落防災安全施設等の整備により地域の生活環境が向上したこと、農村公園等を活用した夏祭りの開催など地域活性化の取組がみられることも評価できる。 今後とも、整備された多種の施設の適正な維持管理のため、地域住民が一体となった取り組みが望まれる。

[illegible][illegible]

惠州交通基础设施	2013-2014年度计划	序号	项目名称	负责人
		1	惠州港	李俊